

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和7年1月14日（火） 11時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・若手教員が授業力向上に向けて学び合う研修会を開催します
- ・「令和6年度地域と連携した郷土教育・キャリア教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します

質疑事項

- ・若手教員が授業力向上に向けて学び合う研修会を開催します
- ・「令和6年度地域と連携した郷土教育・キャリア教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します
- ・教育長の年頭の抱負について

発表項目

○ 若手教員が授業力向上に向けて学び合う研修会を開催します

今、本県の教育現場は、経験豊かな教員の大量退職と、若手教員の増加によりまして、若手の教員数が増えています。学力向上に向けては、若手教員の授業力向上が課題となっています。そこで、本年度からの新規事業としまして、若手教員等の育成を核とした授業力向上の取組推進事業を実施しています。このたび、この事業の取組の一環としまして、若手教員が授業力向上に向けて学び合う研修会を公開で開催いたします。まず、最初に申し上げました今年度の事業の概要ですけれども、配付資料の1のところにありますとおり、大きく2つの中身があります。1つは、アドバイザーによる授業力向上支援です。モデル校4市町16校を指定しまして、月2回程度アドバイザーを派遣しています。アドバイザーは若手教員の授業を参観し、指導・助言します。もう1つは、若手教員が授業力向上に向けて学校の垣根を越えて学び合う研修会で、年3回程度開催予定です。本日公開の話をさせていただくのは、この2つ目に言いました研修会の方です。なお、ここで若手教員と言っていますが、これは原則として、教職経験2年次から5年次までの教員を指しています。この層の教員が全体の約2割を占めておりまして、これはベテラン層に比べて比率的にかなり高くなっているところです。公開させていただく研修会の詳細ですが、資料の2のところにありますように、1月28日火曜日、伊賀市立上野東小学校での実施になります。伊賀市、名張市のモデル校から若手教員16名程度が参加しまして、授業を見た後、学校の垣根を越えて話し合うということで予定しております。

○ 「令和6年度地域と連携した郷土教育・キャリア教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します

地域と連携した郷土教育・キャリア教育推進事業に係る実践校オンライン交流会の開催についてです。実はこの「地域と連携した郷土教育・キャリア教育推進事業」という事業も本年度の新規事業です。かいつまんで説明しますと、要は、小中学校において、地域を題材とした課題解決型の学習を、地域の企業と連携して行うという取組です。地域を題材としますので、郷土教育になりますし、企業と連携しますので、キャリア教育になるということで、こういう事業名になっています。今回開催する実践校オンライン交流会ですが、配付資料の2のところにありますように、2つの内容があります。1つは実践校の4校による研究成果の発表です。もう1つは外部講師による講話です。次の3のところに、実践校と研究テーマをお示ししています。津市の八ツ山小学校は松阪牛がテーマです。津市の伊藤牧場とか朝日屋さんの協力を得まして、探究学習を進めました。名張市の名張小学校は「なばり学」がテーマです。地元の精肉店、酒造店、温泉などの協力のもと、学びを深めました。四日市市の橋北中学校はコンビニに着目しました。近隣のコンビニに加えまして、ファミリーマート、セブンイレブンの2社に協力をいただき、経済に関する学習を深めました。紀北町の赤羽中学校は、紀北町の未来に焦点を当てました。株式会社デアルケ、200%トマトジュースで有名だと思えますけど、この株式会社デアルケ等、地元企業その他、県外企業にも協力いただきながら、地域の未来を考えました。子どもたちが頑張りましたので、個々の事例にご関心があれば、小中学校教育課にお問い合わせいただければと思います。このオンライン交流会は、1月17日金曜日、県庁7階の第1会議室をオンライン主会場にして実施します。講話については、渡部（わたなべ）カンコロンゴ清花（さやか）さんをお願いをしています。

発表項目に関する質疑

○ 若手教員が授業力向上に向けて学び合う研修会を開催します

（質）若手教員の授業力向上の方なのですが、派遣される、この授業力向上アドバイザーというのは。実際にどういう方が、どういうポジションでいらっしゃるのか。

（答）校長のOBなどです。

（答 学力向上推進プロジェクトチーム）中でもやはり経験豊かで、そういった管理職としての豊富な経験の中で、学校経営ですとか、教科の指導に関する専門的知識がすぐれた指導力を有する者をアドバイザーとしております。

（質）何人ぐらいいらっしゃるのですか。

（答 学力向上推進プロジェクトチーム）本年度2名です。

（質）教員ということですが、対象は小学校なわけですか。

（答 学力向上推進プロジェクトチーム）モデル校が小学校、中学校ともにあります。

（質）年に3回程度研修会を実施するわけですね。それは、小学校、中学校合わせて3回ということですか。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) 大きく4市町がありまして、そこを2グループに分けております。1グループずつが3回程度になりますので、参加者はそれぞれ小中の教員が行っております。

(質) 簡単に言うと、小中学校の教員の授業力の向上を図るということでもいいですか。

(答) はい、そうです。

(質) 小中学校の教員の授業力の向上を図る研修会というのは、おそらくこれまでもいろんな形で開かれてきたとは思いますが、あえて今回この事業としてこれを取り組む意義というかこれまでと違う点はいかがですか。

(答) 若手教員に焦点を当てた、こういうアドバイザーとしての取組というのは今回新規になります。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) また、学校の垣根を越えて、若手教員同士が学び合うということについてもです。

(質) その垣根の越え方ですけど、要は1つの会場に、複数の学校の教員が集まる。議論をするという趣旨で、あとその若手に特化したと。

(答) そうですね、教職2年次から5年次の教員ということです。

(質) これ初めてということでもいいのですかね。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) はい。

(質) 若手に特化した研修会が初めてと。

(答) そうです。

(質) 多分過去にもやっていたのではないかなという気もしないでもないですけど。

(答) 学校に焦点を当てて、学力向上に取り組む事業はあります。

(質) この年に3回というのはこの1年だけではなくて、来年以降も引き続きこの事業はやっていくと。

(答) まだ予算が決まっていませんけれども、この事業は来年度もやっていきたいと思っております。同じような形で進めていくつもりでいます。若手が相当多くて、この2年次から5年次までの教員で2割を占めています。およそ申し上げますと、大体教職の就業年数は40年ぐらいですので、1年当たり40分の1の新規教員がいたら普通なですよ。1年に2.5%として、4年間で大体10%になるのですが、実際には20%いますので、割合として非常に高くなっています。しっかりと育成していきたいと思えます。

(質) 2年次から5年次までの教員が、全体の教員の。

(答) 2割くらい。

(質) 2割を占めるでもいいですか。

(答) はい。

(質) 小中ともに。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) 小中合わせてです。

- (質) 小中合わせて。県内で。
- (答) そうです。
- (質) 例えば、離職防止とか人手不足で確保を図るとか、そういった主眼はこの事業にはあまりないですか。
- (答) この事業はそれとは関係ないです。
- (質) モデル校が4つでしたか。
- (答) 4市町の16校です。
- (質) 年間で何人ぐらいの教員が研修を受けることになりますかね。
- (答) 今回は89人が対象になっています。
- (質) 今回は16人程度参加予定ですけど、年間で86人。
- (答) 班を分けていますので、それぞれの垣根を越えた研修会には全員が参加するわけではないです。
- (質) 改めてになりますけど、研修会ということに対しての、どういった成果が得られるとか、どういった成果を期待しているのかという思いをお伺いしたいのですけども。
- (答) 最近の若手教員の悩みというのは授業力にあたり、学級づくりにあたりということも聞きますので、若手に対して授業力の向上を図っていく、授業力だけじゃなくて、学級づくりなんかも含めて、話し合いの中で力を培っていくということが非常に大事だと思えます。こういう機会をてこにして、若手教員がしっかり伸びていくということを我々は期待しています。
- (質) 研修会の件なのですけども、2割を占めるというのは年次が高い方で辞める方が多くなって、その反動で入る方も増えているからということですか。
- (答) そうです。ざっと言うと、高齢の層と若手の層が多くて、中間層が少ないです。ですので、学校の中でオンザジョブトレーニングをやる層が少ないということもあって、若手教員の育成というのが非常に学校の中で問題にもなっています。そういうこともあって、我々として事業を始めているというところでもあります。
- (質) 内容として、最初は2学年の算数科の授業はどなたが。この16人のうち1人がモデル的にやって、それを見て、そのあと協議でこの授業どうだったみたいなそういう話をされるのか。
- (答 学力向上推進プロジェクトチーム) そのとおりです。
- (質) さっき説明があったかもしれませんが、説明の中に公開開催しますという、この公開というのはどういう意味ですか。
- (答) これは報道に公開するという趣旨です。
- (質) 報道に対して。一般の人とかは見に来て駄目だということですね。教員で関心のある人が行くとかいうことじゃなくて、報道に対しての公開。
- (答 学力向上推進プロジェクトチーム) 年3回程度実施しているうちの今回を、報道の皆様方に公開させていただきますということになります。

(質) 他の回はやらないけど、この回はいいですよということですね。

(答) はい。

(質) 実際この研修で行うことなのですけど、誰かが授業するのを他の教員が見るという形式ですか。

(答) この垣根を越えてやる研修はそうです。

(質) 授業、算数と書いてあるけれど、2学年の算数を、実際に子どもたちに授業しているところを。参観日のような感じで。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) はい。

(質) 授業するのは1人。

(答) この当日の授業をする人を決めて、その人が担当して授業し、それをもとに議論していくことになります。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) これまで、トータルで1年間2グループ合わせて7回しますので、それぞれ1回ずつに1人の2年次から5年次の先生が授業をするという形になります。

(質) 年間で7人の教員が登壇する。これは若手の中でも非常に授業力の高い人が、モデルとしてする。

(答 学力向上推進プロジェクトチーム) 授業力向上アドバイザーが全ての先生の授業を見る中で、この先生の授業が、いろいろこう若手の先生同士が協議するのにふさわしい授業ではないかというところで、選定しています。

(質) そのあと、その授業についての協議で、若手教員が意見交換するというわけですね。

(答) そうですね。

○ 「令和6年度地域と連携した郷土教育・キャリア教育推進事業」にかかる実践校オンライン交流会を開催します

(質) 講師の渡部カンコロンゴ清花さんがなぜ選ばれたのかとこのタイトルはわかりますか。

(答 小中学校教育課) 今回、この事業を進めるにあたって、委託をさせていただいたので。その委託企業の方からご紹介いただいたということになるのですけれども、今回の講演のテーマで、「正解のないことへの挑戦を仕事にする」。副題として、「チャレンジすることの意味」となっております。

(質) この人を選んだ理由は。

(答 小中学校教育課) さまざまなご経験がある、ここにも書かせていただいたのですけれども、これまでの生い立ちの中でいろんなご経験があるということ。そして、お子さんがいらっしゃる、まだお若い方なのですけれども、やはり子どもたちの目線に立ってお話をしていただけるのではないかなというところから、この方を決めさせていただきました。

(質) そういう人はいくらでもいると思うのですが、ただ、この人を選んでいるのはなぜなのですか。なぜこの人がふさわしいと。

(答 小中学校教育課) 子どもたちの、やはり学ぶことと仕事に関してというところで、本当にいろんな経験をされている方ということと、それから、やはり女性の立場からいろいろお話をさせていただき、子育ても、3歳のお子さまを育てていらっしゃるというところで、子育てしながら仕事もしているというところから、選ばせていただきました。特にここにも書いてあるようにいろいろな紛争地にも行かれて、その経験もあるというところで、子どもたちが世界に目を向けながら、さまざまな仕事を考えていくときに、いろいろな示唆を与えていただけるのではないかとということで選ばせていただいた次第です。

その他の項目に関する質疑

○ 教育長の年頭の抱負について

(質) 年頭会見ということですが、何か今年の抱負とか、昨年の反省等がありますか。

(答) 昨年の反省をすると不祥事の話になるので、年頭の抱負ということで。今年は、教育ビジョンが昨年4月から始まっていますので、教育ビジョンの1年目から2年目にかけての年ということで、しっかりと柱になる施策を進めていかなければならないと思っています。私は常に教育施策は3つの視点をバランスよく、しっかりやっていかなければならないと思っています。その3つというのは、1つは前向きの視点、これは将来、激動の時代を見据えて子どもたちに生きていく力を育てていくという部分ですが、自己肯定感の涵養とか、課題解決力とか情報リテラシーとか社会を作っていく力とか、そういうものを今培っていかなければならないと思っています。2番目の視点は上から俯瞰する視点で、これは、生きづらさを抱えている子どもたちを、絶対誰1人取り残さず教育していくというものです。今、私が一番重視しているのは、不登校児童生徒支援です。かなり不登校児童生徒数が増えていますので、ここをしっかりとやっていく必要があると思っています。この他にも、いじめ対策とか、外国人児童生徒、それから特別支援教育、こういったことが重要になると思います。3つ目は、足元を見る視点で、これは学校とか教員といった部分です。まさに教員不足ですし、働き方改革やカスタマーハラスメント対策、それから不祥事への対応を含めて、しっかりと教員の対応をしていきたいと考えます。今申し上げた3つの視点をしっかりとバランスよく進めていく、これが大事ななと思っております。今年も、しっかりそれを意識したいというふうに思います。

(質) その3つの中で、特に何に取り組みたいかということはいかがですか。

(答) 特にと言われると、目の前に大きく立ちだかっている課題は、不登校児童生徒支援と教員不足対策の2つが大きいと、これは常々、昨年からも思っています。昨年末には不祥事が多発しましたので、不祥事対策も重要だと思っております。これら全部「不」

という字がついているので、不登校、不祥事、教員不足という、この3つの「不」について、しっかり進めていかなくてはいけないのかなというふうに思います。

以上、11時22分終了